

毛皮のコート 「女王」の貫禄

8月に76歳で亡くなったアレサ・フランクリンは、「ソウル女王」と呼ばれる米国の国宝級の黒人歌手です。60年を超えるキャリアで、グラミー賞を何度も受賞し、2005年には民間人最高の榮譽とされる「大統領自由勲章」を授与されます。09年のオバマ大統領(当時)就任式でも歌声を披露するなど、伝説は枚挙にいとまがありません。

オバマ前大統領が「アレサが歌う時、アメリカの歴史が浮かび上がる」と評し、涙したように、ソウルフルで天地を震わす歌声は、神の崇高な力さえ感じさせます。そして装いや態度もまた「女王」の

【アレサ・フランクリン】

Style
アイコン



呼称に多大なる貢献をしています。
黒人差別の中でデビューし

た当時から、彼女は高い自尊心を持ち、自分に敬意を払うよう周囲に求めます。盗まれないようギヤラを入れたバッグをステージに持ち込んだというエピソードは、彼女が過酷な環境で闘ってきたことをうかがわせます。

時代に応じて髪形も装いも変化して

ますが、二の腕と胸元を露出したドレスに、毛皮のコートやジャケットを羽織る姿が女王のスタイルとして強烈に印象に残っています。

量感のあるボディーを露出するドレス姿を批判されても、「露出の多いドレスを着るには十分すぎるボディーかもしれないが、不満をもったことはない」と一蹴。最近「プ

ラスサイズ」や、ふくよかな曲線の「カービーボディー」の美を認めよという運動が盛んですが、堂々と着たい服を着る手を彼女が示してしましたね。動物愛護団体から度々抗議を受けても毛皮の衣装を着続けました。

15年にワシントンのケネディセンターで歌った時、クライマックスで毛皮のコートを脱ぎ捨てました。毛皮より私の存在にこそ価値がある、とほえるかのような熱唱に鳥肌がたちました。ボディーサイズの問題も毛皮への批判も、圧倒的な才能の元で吹き飛ばされたかのようでした。スターではなく、女王ですらなく、女神に見えた瞬間でした。(エッセイスト 中野香織)